

むかし「局アナ」いま「隠居」

必勝 スローガン

賛賞は敵だ
撃ちてしまむ



朱英撃滅
一億一心
進め一億

謹賀新年



上田博章(絵・文)

1933年徳島市生まれ 大阪府在住
■京都大学農学部林学科卒業
■元朝日放送アナウンサー
■元池田マルチメディア代表取締役
■講演、朗読指導など以外は隠居中

私は銃後の少国民として戦争に協力してきました。いや、「協力」なんていう軟なものではありません。「鬼畜米英」を皆殺しにする意気込みで、踏ん張ったり辛抱したりという：威勢がいいが情けない子供時代を過ごしていたのです

「銃後」は、英語で「ホームフロント」と言いますが、日本で「銃後」という言葉はもう「死語」になっているのではないのでしょうか。

もしかすると安倍首相や永田町の先生方も、ピンと来ない言葉かもしれません。

戦前の歌「国民進軍歌」の三番の歌詞に「銃後」が出て来ます。

♪

あの子 あの父 あの夫
皇国の楯と征きに征き
奮う銃後の一億が
強者の家 扶けつつ
いま前戦に呼应して
声も轟く 進軍だ

四番まである この歌の三行目の歌詞は、それぞれ「燃える希望の一億が」「奮う希望の一億が」

「尽きぬ感謝の一億が」「強い覚悟の一億が」といった調子で、やたら「一億」が目立つ歌です。

こんな歌が生まれたのは一九四〇年(昭和15年)で、この年、わが大日本帝国は皇紀二千六百年記念式典を執り行った年でした。

今にして思えば、日本が最も調子に乗っていた時期ではなかったでしょうか。

* 同じ時代の軍歌で、「出征兵士を送る歌」にも一億というのが出てきます。

映画やテレビドラマの出征風景で流れる曲なので若い方も御存知でしょう。

♪

我が大君に 召されたる
生命 栄えある朝ぼらけ
称えて送る一億の
歓呼は高く天を衝く
いざ征け強者 日本男児

この一億という数字は日本人の頭数ですが、当時、日本に統治されていた台湾、朝鮮などの人口も勘定に入っていたのです。そして当時の「億」という

数字は「全体主義の象徴」でもありました。

私たち国民学校の学童は「一億一心」のスローガンのもと「(昭和)天皇の赤子」として忠義を尽すようにと学校で教わり、食うものも食えず、授業も受けられず、ひたすら米作りや開墾に勤しんでいたのです。

「いざ征け強者」と歌って兵士を大陸の戦場に送ったシナ事変が膠着状態のまま、何と一九四一年(昭和16年)、大日本帝国は米英を相手に宣戦布告したのでした。



大政翼賛會

やがて年が明け、戦況も調子よかった一九四二年(昭和17年)、大政翼賛会の「進め一億火の玉だ」というスローガンが歌になって、NHKがガンガン放送する

ようになったのです。

この歌の三番の歌詞にも「一億」と「銃後」がしっかり出て来ます。

♪ そうだ一億火の玉だ
一人一人が決死隊
ガッチリ組んだこの腕で
守る銃後は鉄壁だ
何が何でもやり抜くぞ

当時、国民学校の三年生だった私は この歌をよく歌ったので今も歌えますし、イントロのメロディーも、ちゃんと覚えています。

* 「大政翼賛會」といいますと、ズバリ、「大政翼賛の歌」が一九四一年(昭和16年)の三月…ということは戦争が始まる ほんの九か月前に発売されましたが、早い話、「全体主義国家の応援歌に相応しい歌詞」といってもよろしいでしょう。

♪ 両手を高く差し上げて
我ら一億 心から
叫ぶ皇国の大理想
今ぞ大政翼賛に
燃え立つ力 併せよう

こんな時代を生きた私は、「一億」という数字で「全体主義」を連想するのです。

大政翼賛会は一党独裁で、国会の心は一つでしょう。

そうしないと「宣戦布告」なんか出来るわけがない…

…かといって戦争は必ず、勝つとは限りません。

人を殺し、自分も殺され、それでも敗ける時は敗けるのが戦争です。

*

むかし、ある国で徴兵を呼びかけるスローガンに、「平和のために銃をとうろく」というのがありました。

「そんなもん アカンやろ。銃をとつたら戦争やがな」と思う人と、

「銃口を突き付けたかてな、引き金を引かんかったら、これは戦争とチャウで」と言う人もいるでしょう。

これを「一種の抑止力」というのかもしれない。

しかし、さらに屁理屈を並べてみますと…

「引き金を引き 戦争をして、敵兵や敵の国民を皆殺しにすれば 必ず平和が来る」

これとて平和の一種かも

しれませんから、ここで、「平和のために戦争しよう」という変なスローガンも成立してしまいます。

しかし、戦争で敵国民を皆殺しにして勝利を収めた残酷な国…、そういう国の国民は気を遣いますな。

偉い人の悪口など言おうものなら、死刑 どころか、

火炎放射器で焼き殺される覚悟が必要です。

そもそも、よそ様の国を攻めるとき「侵略します」と

言って攻撃した話は聞いたことがありません。

「懲らしめたる」「仇討ちや」「同盟国の助太刀でござる」

…こんなのは正直なほうで、多くの「開戦スローガン」は、

「正義のため」「自由のため」「偉大なる神のため」「誰かさんのため」…でした。

近頃は「テロから国民を守るため」や「自衛のため」「国民の生命 財産を守る」

とか「邦人の保護」…つまり、「防衛」という大義名分で

「侵略戦争」や「テロ」を正当化する…というのが、

世界の常識になっているのではないのでしょうか。

一昨年亡くなった作家の「なだいなだ」さんは、常々、「神聖」という言葉が出たら、用心した方がいい」と

と言っていました。

イスラム教徒は「聖戦」をジハードと言っています。

十字軍も、大東亜戦争も、聖戦と言っていました。

「神聖」というのは「正義」と似たところがあります。

自分にとっては正義でも、隣の国からすれば理不尽で

邪悪で犯罪的な考え方だと思いかも知れません。

「卑劣なテロには屈しない」というスローガンに対し、

「神聖なるジハード達成!!」と叫ぶスローガンが衝突

して 血が流れるのです。

銃後の少国民だった私は、「一億一心!! 皆で我慢して

頑張れば 必ず神風が吹く」こんな標語や、お題目、

軍歌などに踊らされ、もうスローガンなんか懲り懲り、

見たり聞いたりしただけで気分がよくありません。

オフィスにスローガンを掲げる企業がありますが、

今どきそれを見上げて、「よっしゃ 頑張るぞ」

なんて気合を入れる人がいるのでしょうか。

もし私だったら、「戦争中じゃ あるまいし」

うんざりして勤労意欲を失うに違いありません。

今回、安倍内閣が掲げた「一億総活躍社会」もねえ…、

何だか 胡散臭くて古臭く、

自民党の石破さんの言葉を拝借すれば、

「自民党、感じ悪いよネ」

…どうも私は スローガンアレルギーのようです…。

* 評論家の大宅壮一さんが一九五七年、テレビ番組が

あまりにも愚劣なのを嘆き、戦時中の「一億総」という

スローガンを巧く引用して、「一億総白痴化」なる警句を

世に出して、テレビ業界に衝撃を与えました。

また「一億総懺悔」というのが 敗戦直後、東久邇

内閣から出されています。

これは、戦争責任を国民全員で懺悔すべきだという

意味だったので、指導者の戦争責任をウヤムヤにする

スローガンになってしまいました。

その点、自治体が好んで街角に立てるスローガンは、無邪気で当たり障りがなく、綺麗ごとばかりですから、アホらしいけど罪がなくて

よろしい。

わが大阪府 摂津市は、



「環境創造宣言都市」

「快適で 魅力あふれる摂津めざして」

一方 お隣の茨木市は、「学ぶ喜びを まちの誇りや豊かさに」

「生涯学習 宣言都市」



いずれも綺麗ごと満載のお題目で、どうということのないスローガンです。

ただ我が摂津市の看板は、下の方に、寄付した団体の名前が記されていますので、税金の無駄遣いがないだけ「マシ」といえるでしょう。